



表紙の説明

昭和29年12月1日に峠下小学校豊平分校として設置の認可があり、社宅を借用して教室にあてた。昭和32年増改築し、新校舎完了。昭和34年豊平小学校として独立。昭和35年グラウンド完成。ただ時代の変化による豊平炭坑の閉山（昭和42年）などにより子供たちが減少し昭和46年に閉校となる。



豊平炭坑

なお、この地には三鷹特別教授場が大正6・7年頃、純農家子弟教育の場としてあったが約1年半ほどで閉校となっている。

ちびっこギャラリー

お子さんの絵を募集しています。 ☎2・1801内線293までご連絡ください。



「X'マス会」 大和田保育所 たんぽぽ組

キャンドルサービスが楽しかったです。後列左から おさだたくや、くぼまさる、いとうまさと、せきざわかずや、うまかりあき 前列左から はりまゆうき、しぶやあきと、さがしょうた、よしもりあき、かとうきよか



留萌 いま・むかし 第六十二回

大和田炭鉱

北海道の有力な産業であった石炭産業が今や消滅しようとしている。エネルギー革命による石炭から石油への転換は北海道の石炭産業を荒廃させ、本道の過疎化の一因になっている。

この、前ぶれともいうべき出来事が留萌において過去にあったのである。昭和三十四年七月、明治以来断続的に続いてきた大和田炭鉱が閉山したのである。

大和田炭鉱は明治三十三年青森県人石田勇三郎と佐藤蔵が留萌原野九線でメンコ炭山を開坑し、同じころ留萌原野十線で佐藤喜代治、金沢為也により金喜炭鉱が開坑された事に始まる。このころは、まだ、地上に露出している炭層から採炭するという幼稚な

採炭方法であったらしい。

この採掘方法が長く続くわけがなかった。石炭の層は地下へ地下へと延びており、これ以上の採炭を続けるにあたってはそれ相応の設備投資が必要であった。明治三十六年それまで、羽幌で鯨漁をしていた齋藤知一がメンコ炭山の経営に乗り出し、齋藤炭鉱と名称を変更。二年後の明治三十八年には金喜炭鉱も有名な敦賀の実業家大和田壮七が経営に乗り出し、大和田炭鉱と称するようになった。

メンコ炭山や金喜炭山の時代には、採掘された石炭は当時やっと増え始めた蒸気船の燃料として、留萌の港にはいる船に供給されていたにすぎない。しかし、この二人の実業家が乗り出すことにより、

年間二万ト

ン以上の採炭が可能になり、本州へも送られるようになった。明治四十年には巻揚げ機械を設備し、大和田から

留萌まで馬車による軌道を整備し、当時一流の先進的な炭鉱であった。明治四十一年の統計によると産出高齋藤炭鉱一万四千七百八十八トン、大和田炭鉱二万九千五百六十二トンである。

明治四十年三月には、齋藤炭鉱が大和田炭鉱に吸収合併され、大和田炭鉱株式会社として全鉱区を採炭すること

なった。

この大和田壮七の名前がその三年後に開通した鉄道留萌線の駅名になり、また、大和田町という地名の由来でもある。

しかし、地名の由来である大和田壮七は大正七年には炭鉱より撤退している。



大和田 齋藤炭鉱